

わぐら
和倉遺跡

所在地 豊田市田折町和倉・下山田代町蔵平地内
(北緯 35 度 1 分 38 秒
東経 137 度 19 分 11 秒)

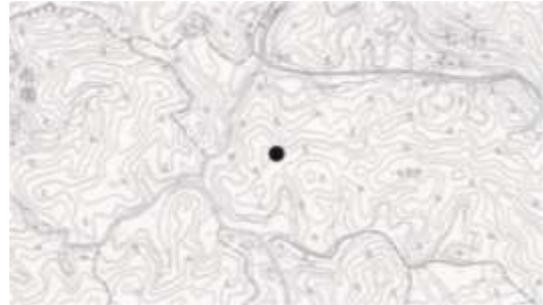
調査理由 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成
事業

調査期間 平成 26 年 5 月～平成 26 年 8 月

調査面積 2,950 m²

担当者 鵜飼雅弘・橋本昇・三輪みなみ

調査の経過 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に伴う事前調査として、愛知県企業庁より委託を受けて調査を実施した。



調査地点 (国土地理院 1/2.5 万「東大沼」)

立地と環境 和倉遺跡は豊田市西部の田折町・下山田代町に所在する。調査区は「Y」字状を呈する。調査区北西部から南端へと下る斜面と、北東部から「Y」字交点部分へと上る地形によって構成される。調査前は主に杉が植林されていた。標高は 447～470m、調査面積は 2,950 m²である。近隣には蔵平遺跡がある。

調査の概要 調査区の南半分を 14A 区、北半分を 14B 区と設定し、調査を行った。調査の結果、縄文時代、古代、近世～現代の遺物が出土した。ただし、遺構の時期が特定できたものは少ない。

1 4 A 区 14A 区は調査区の南側に位置し、南へ下る緩やかな斜面である。調査面積は 1,500 m²である。

古代、近世の遺構は検出していないが、古代の灰釉陶器、近世の銭貨の寛永通宝が出土した。

近代以降の遺構は煙道を有する炭焼窯 (0505SY、0509SY、0514SY) を検出した。0514SY の脇から出土したキセル筒の素材がプラスチックと思われる、遡っても戦後頃と考えられる。遺構の切り合い関係から、南の窯ほど古いことが確かである。煙道を持たない 0515SY は 0514SY より古い窯だが、遺物が出土していないため時期は不明である。近代以降の遺物は、先述の筒に入ったキセルが出土している。

時期不明の遺構は炭焼窯、陥穴、土坑などである。煙道を持たない炭焼窯を 6 基 (0501SY、0502SY、0506SY、0507SY、0515SY、0528SY) 検出した。陥穴は 3 基 (0518SK、0527SK、0526SK) 検出され、0518SK、0527SK は底部にピットを有する。0526SK は底部にピットはみられないが、規模や形状が他の陥穴と類似することから、同じ用途の遺構と判断した。時期不明の遺物は土器片、石材の剥片が出土している。このうち、土器片 2 点は遺構内からの出土である (0516SK、0526SK)。

1 4 B 区 14B 区は調査区の北側に位置し、北西から南へと下る斜面と、北東の谷から南へと上る斜面で構成される。調査面積は 1450 m²である。

縄文時代の遺構は、遺物が少なく特定できなかった。遺物は、中期頃の土器が黒褐色土層から 1 点出土した。

古代の遺構は検出していないが、遺物は灰釉陶器が出土した。

時期不明の遺構は、炭焼窯、陥穴、ピットである。煙道を持たない炭焼窯を6基(0002SY、0003SY、0004SY、0007SY、0009SY、0010SY)検出した。0013SK、0014SK、0015SK、0016SKは底部にピットを有する土坑で、陥穴と考えられる。遺物は遺構外から土器片、石材の剥片が出土している。

ま と め 縄文時代、古代、近世～現代の遺物が出土しているが、遺構の時期として明確なものは煙道付の炭焼窯(近・現代)のみである。和倉遺跡では多くの炭焼窯を検出し、14A、B区合計すると煙道付が3基、煙道なしが12基である。下山の煙道がない炭焼窯は、14A区で述べた0515SYに代表されるように、煙道があるものよりもやや古いのではないかと推測されている。

また、和倉遺跡では今回多くの陥穴を検出した。陥穴は北東の谷から山稜を越えて調査区中央付近から始まる浅い谷までに集まって検出された。径、深さ共に1m前後が多く、ほとんどが円形又は楕円形で、0013SKのみ平面形が隅丸方形である。これらは、底部に1～2基のピットを有するものが多い。0013SK、0014SKの検出面と縄文土器が出土した層との関係から縄文時代の陥穴である可能性が考えられるが、遺物が少ないため推測にすぎない。今後、炭化物の分析を行い、その結果と照合しつつ改めて時期を検討する予定である。

和倉遺跡では、全時期を通して遺物の密度が薄く、小片ばかりの出土であった。遺構は近代と時期不明の炭焼窯が多く検出され、頻繁に炭焼きが行われた場であったことが分かった。また、縄文時代の可能性がある陥穴も多く検出され、和倉遺跡は人が住むための場所ではなく、狩猟や炭焼きといった生業を営む場所であったことが分かった。

(三輪みなみ)



図1 調査区図 (1:2000)

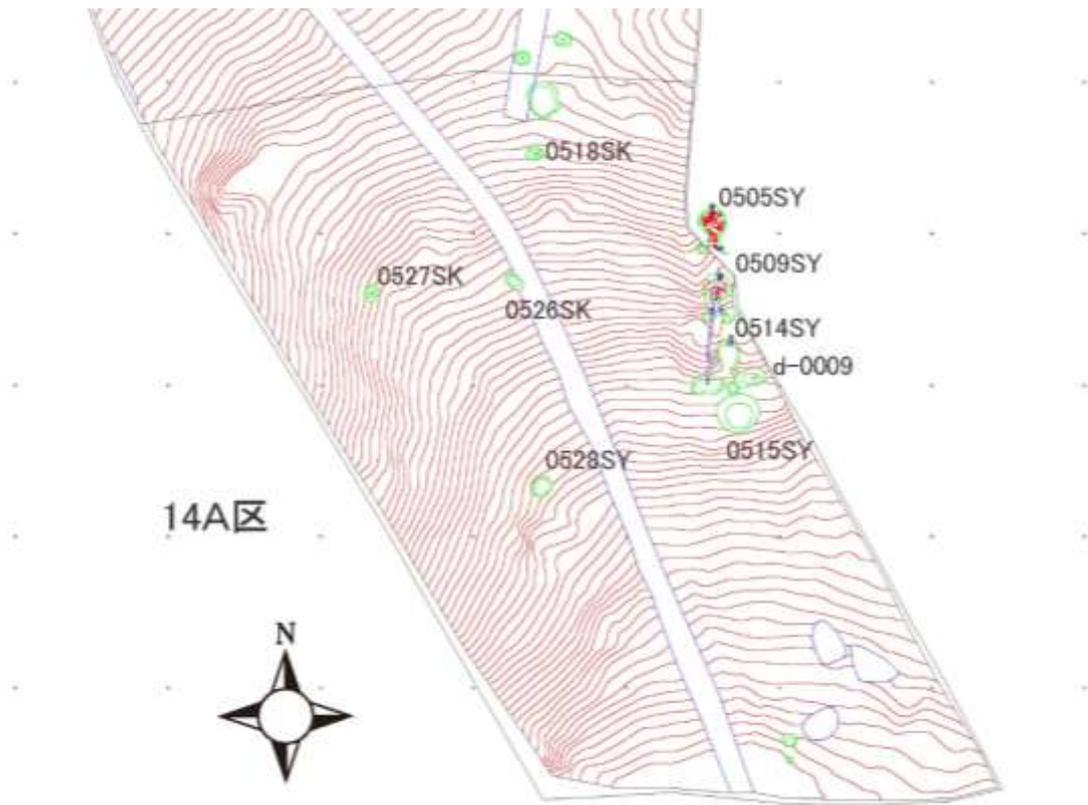


图2 14A区遺構配置図 (1 : 500)

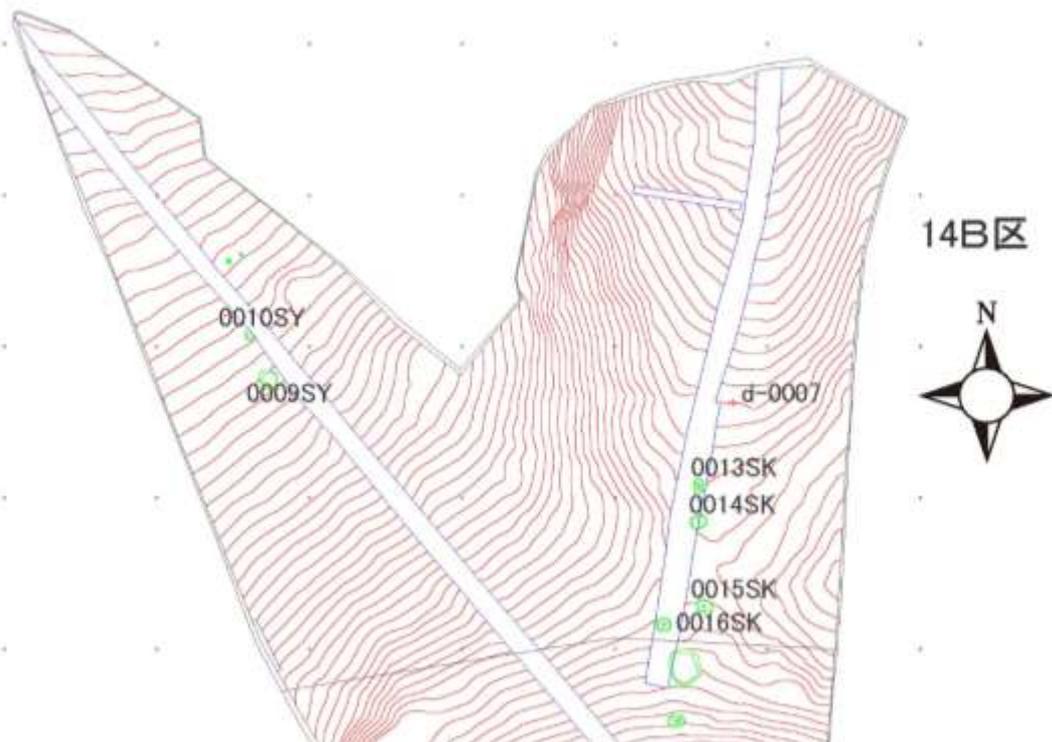


图3 14B区遺構配置図 (1 : 500)



調査区全景（上が東）



炭焼窯（南から）（上から、0505・0509・0514・0515SY）



0505SY 煙道（南東から）



キセル筒出土状況（d-9、南から）



陥穴検出（西から）（左から 0013・0014SK）



陥穴群（南西から）
（手前から 0527・0526・0518・0016・0015・0014・0013SK）



陥穴（0527SK）完掘状況（南から）



縄文土器出土状況（d-7、北から）